

## 『ソーラープレーン現状報告 6』

(少々愚痴アリ)

今年もまた酷暑の夏です。ここトタン屋根の工房も日中は40℃を超えてきます。先日訪ねた甲府の地は、外気温が40℃近いとの事ですから、ほとんど災害といっても良いかもしれません。冷房なしでは何もできないでしょう。『STOP 温暖化』の標語もすっかりなりを潜め、火力発電にほとんど全面依存した現状は、気温とは裏腹に背筋が寒くなる思いがします。

さて、つい先日、SOLAR IMPULSE が北米フライトを成功裏に終えました。数々の印象的な映像を我々に見せてくれましたが、惜しむらくは、SUNSEEKER の時と同様、このチャレンジが日本ではほとんど注目されなかった事です。NHK だけはドキュメントを放送しましたが、民放で扱われなかったということが、経済界からは関心を持たれなかった事を端的に表しています。

ソーラープレーンが経済を直接救うわけではありませんが、その挑戦から得られる直接間接のエネルギー技術革新、或いは革新への鼓舞は計り知れないものです。安全第一で規制を増やすだけでなく、ともかく何か新しいことを始めようという気持ちを沸き立たせるには、こういうチャレンジを見るのが一番です。アベノミクスの3本目の矢はそういうものであるはずです。資本を持つ階層に着眼して欲しかった、と残念です。



我々がソーラーフライトプロジェクトは相変わらず資金難が最大の障壁。その中でも、バッテリーの減量はサレジオ高専渡邊研究室にて進行中です。巡航に要する電力は僅かなため、セル構成を変えて離陸に要する短時間は昇圧してパワーを得ようという作戦です。目論見通りなら電源バッテリーを半分の

2013年7月15日

重量にできるはずですが。製作スケジュール的には、とっくにソーラーフライトを達成している頃ですが、資金が無くては動きません。

各地でのデモフライトは、必ず国産ソーラーフライトを強くアピールする機会になります。どうか皆様のご支援を切にお待ち申し上げます。

四戸 哲

2013/7/15